

レジェンド&近畿・兵庫マスターズ大会

霜月の11月。次第に冬めく季節に。地域によっては暖房がほしいところ。マスターズ陸上の大会がすっかり陰に隠れ、景気の良いニュースも途切れたが、9月20日の敬老の日に、神戸市で近畿大会と兵庫マスターズ陸上競技大会を兼ねたイベントが行われ、日本新が生まれるなど盛り上がりを見せた。今月号も同大会とレジェンドの組み合わせで。

末吉真規子さん(59歳・石川)
2000mSCの2クラスに日本記録

2020年度日本マスターズ記録集のクラス別日本記録に女子800mのW50・2分29秒52、2000mSCのW50、55に7分48秒61、8分17秒04と末吉真規子さんの名前が掲載されている。

末吉さんがマスターズで活動し始めたのは、1995年の日本マスターズ連合が女子は35歳以上出場可とした以前の34歳からだ。当時の石川マスターズ記録によると、女子・W30・1500m 4分56秒9、5000m17分49秒0として末吉さんの名前が載っている。

34歳になる直前の33歳時のベストは1500m 4分50秒99、5000m17分48秒0だった。当然、日マの記録集に末吉さんの名前は見当たらない。日マ記録集に名前が掲載されたのは、1997年に35歳でW35・10000m38分43秒63の記録を出したときである。

1999年の日マ記録集によると、同年10傑のW35・400m 1分08秒57で5位、800m 2分33秒88の2位、1500m 5分20秒02で6位となっており、2000mSCに末吉さんの名前はなかった。

得意となった2000mSCで名前が登場したのは2007年からだ。同年の北陸マスターズ選手権で45歳のときに走った2000mSCは、7分29秒62だった。さらに2015年度の日マ記録集によると、W50・800m 2分29秒52で51歳、W45・10000m37分42秒91で45歳となっている。

次に2000mSCでは45歳でW45・

7分29秒台を出したあと、51歳でW50・7分48秒61を出している。では、末吉さんが2000mSCをやりはじめたのは、いつからかといえば、2003年からだ。きっかけはフルマラソンをはじめたがうまくいかず、混成競技に切り替えたこと。

ところが混成競技ではハードルがすんなりといかず、見ていた人が「2000mSCなら水濠のハードルもあるけど、距離が長いだけいいのでは」と、転向を勧めた。末吉さんは思い切って、2000mSCにカジを切った。その後、全日本マスターズの2016年、第37回新潟大会に54歳で出てみた。

W50クラスの2000mSCはたった2人だけの出場だった。末吉さんは初めてのレースで8分10秒32の1位。ほかに300mHにも出たが、こちらは57秒56で3位に。末吉さんは2000mSCの後「今日私が勝てたのは、出場者が少なかったから。2000mSCに出場者が多くなるように、私が一生懸命にやっつて、存在感を出したい」と、控えめに話した。

小学校の先生との両立 ケガを乗り越え世界マで2位入賞

マスターズ陸上の舞台で活躍する前の末吉さんが、陸上をはじめたのが石川県立二水高2年生のとき。800mと1500mの中距離に取り組んだ。800mは2分20秒台、1500mが4分55秒台でインターハイまではいっていないが、石川県内の高校では2番手の実力で、リレーメンバーでもあった。

その後、小学校教諭となり、現在は



東京五輪聖火リレーの代替セレモニーで、ランナーを務めた末吉真規子さん

住んでいる石川県かほく市の大海小学校の1学年の担任を受けもっている。今ではコロナ禍の影響で授業もオンライン学習などで大変だとか。「超多忙」の身で時間的制約を受けながらの練習も「ままなりません」と話す。

55歳で出場した2017年の国際・第38回全日本マスターズ和歌山大会のW55・2000mSCでは、8分17秒04で優勝。次年の第39回全日本マスターズ鳥取大会ではW55・1500mで5分31秒09の2位に。しかし、肝心の2000mSCには末吉さんの名前が見当たらない。その理由は、「学校の都合で急に戻らないといけなくなって」と、出場を見合わせざるを得なくなったそう。

この学校の都合で大会を見合わせたのが、2019年の第40回記念国際・全日本マスターズ群馬大会だった。「残念でした。せっかくの記念大会だったのに」。水濠を飛び越える2000mSCは「しんどいけど、やりがいがあります。レース後、すがすがしい気持ちに



国際・第38回 全日本マスターズ陸上競技選手権和歌山大会においてW55・2000mSCで8分17秒04を出し優勝したときの末吉真規子さん

なって」と話す。さらに、2013年に京都・西京極競技場であった国際ゴールドマスターズ陸上のW50・2000mSCでは、7分48秒61で1位になった末吉さん。「このタイムは当時の世界記録、7分42秒04にあと6秒あまり」で、「世界記録への希望」が持てたと言う。世界マスターズ大会のなかでは、53歳のときに2015年にフランスのリヨンで行われた、第21回世界マスターズ大会が最も印象深い。この大会での2000mSCは8分06秒58で銀をゲットしたのだ。

うれしさが倍増した理由は同年3月、駅伝に出たときに右脚アキレス腱を切り、3カ月の入院で、練習不足だったが2位入賞できたから。「だからすごくうれしかった」

末吉さんは2022年の来年はW60クラスに上がる。「また新しいクラスの記録を目指して頑張りたい。それには1日も早くコロナ禍がなくなり、マスターズの全日本大会が開けるように、願っています」と、意気込みを語った。

マスターズ陸上の第37回近畿・第40回兵庫大会で日本新9、大会新95が誕生

地域マスターズのうち、近畿マスターズ陸上選手権の第37回大会が、第40回兵庫マスターズ陸上選手権大会を兼ねて9月20日の敬老の日に神戸市ユニバー記念競技場で行われた。およそ400人が参加して熱戦を繰り広

げ、日本新9つが生まれた。

熱のこもったレースの跡をたどった。

大会には男女80歳代以上が43人を数え、若い世代とレースを楽しんだ。日本新のほか、大会新は95を数える盛況さだった。日本新はW80クラスで砲丸投8m86、円盤投22m91を出した80歳の嘉成俱子さんだ。

従来の日本マスターズ記録は砲丸投が8m77、円盤投は21m45。兵庫の投てきの女王と称されている嘉成さんの記録は日本新、大会新、兵庫新となった。

トラックでは今年70歳の松村政子さん（大阪）が1500m 6分28秒77の近畿新、大会新、3000m13分23秒00で日本新、近畿新、大会新となった。松村さんはW65クラスの67歳のとき、1500m 5分49秒09、3000m12分19秒75の両種目に日本記録をつくっていた実力者。

同大会前の9月5日に服部緑地競技場であった大阪マスターズ陸上のW70・1500mで6分23秒23で走り、6分24秒58の日本記録を9年ぶりに更新。3000mも13分24秒18で13分36秒64の日本記録を10年ぶりに破っていた。

15日後の神戸での大会では「それ以上の記録を」と張り切ったものの、良かったのは3000mだけだった。ご本人の話では「2年前の10月に右足の軟骨の手術を受け、2カ月入院し、1年後にボルトを抜いたりすると走るところではなかった」と。ようやく今年初めから「ゆっくり走りはじめることができた」とのこと。

この条件下でよくぞ日本新を！ である。

女子ではほかに山崎彩乃さん（京都・19歳）がW-24の800m 2分25秒53、1500m 4分56秒91の2種目に日本新、近畿新、大会新をマーク。85歳の松岡和子さんがW85・1500m 9分58秒73の日本新、近畿新、大会新を出した。これまでの日本新はW-

24・800m 2分27秒83、1500m 5分14秒70、W85は今回が創設となる。

元五輪選手が登場

男子100mのM45クラスに朝原宣治さん（京都・49歳）、女子のW35クラスの200mに中村友梨子さん（兵庫・35歳）が会場し、注目を集めた。中村さんは2008年北京五輪のマラソン代表だったが、このところ短い距離に力を注いでいる。この日の200mは31秒45（+0.8）で2位となった。

熱っぽかったのは男子のM45・100mだ。100mで3度、4×100mRで4度の五輪出場を果たしたレジェンドの朝原さんと、赤堀弘晃さん（兵庫・49歳）の対決だった。同じ兵庫県内で陸上を続けていた高校時代は、朝原さんと赤堀さんの実力差は互角だった。現在は赤堀さんがM45・100m11秒02（2019年）の日本記録保持者になっている。

レースは赤堀さんが11秒21（-1.2）で、朝原さんの11秒39（同）を抑えて勝利した。当の赤堀さんは「私は走り込んでいて、彼は陸上教室の指導者として忙しく、練習してなかったので」と言い、「来年フィンランドのマスターズ世界大会が、予定どおり7月にあれば出てみたい」と熱をこめて話した。

赤堀さんはM45・200mにも出て、22秒99（±0.0）で圧勝。200mのM-24では佐藤玄主さん（兵庫・21歳）が21秒50（+0.6）で、21秒89の日本記録を上回った。なお、朝原さんの11秒39と、赤堀さんの11秒21、22秒99はいずれも近畿新、大会新となった。

ほかではM-24・60m 6秒91（-1.6）の森川雄太さん（兵庫・24歳）が6秒93の日本記録を破り、同じクラスの800mでは四方悠瑚さん（兵庫・22歳）が1分58秒46の日本記録を書き替え、1分50秒69の新記録を出すなど、若いクラスが頑張った。